

「今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）」記録要旨【胆江ブロック】

平成27年5月20日（水）

奥州市役所江刺総合支所 4階大会議室

【小野寺 金ヶ崎町副町長】

- ・今後の高等学校教育の基本的方向の総論は賛成である。
- ・具体的な再編案が出されると議論になると思うが、再編案を示す前に意見を出して欲しいと言うことであれば、金ヶ崎町としては金ヶ崎高校の存続をお願いしたい。
- ・少子化に伴い県として高校再編は避けて通れないことかもしれないが、町にとっては一つしかない高校であるので無くなることは地域に与える影響が大きい。
- ・金ヶ崎町では英語教育に力を入れている。今後、小中高の連携を進めていきたいと考えている。

【青沼 奥州市認定農業者協議会長】

- ・胆江など地域から高校がなくなると、さびしいものがある。
- ・岩手は農業が基幹産業である。農業の担い手や新規就農者を確保する意味でも農業高校は必要であり、配慮してほしい。

【千葉 金ヶ崎農林水産関係者代表】

- ・生徒数が減少していくことははっきりしている。きめ細かな対応をするには学級定員を見直すことは必要と考える。
- ・子ども達にこれからの時代を生き抜いていく確かな力を身に付けさせるためには、教員の資質を高めていく必要がある。
- ・胆江ブロックは他のブロックへの流出が多いことが気になる。それを防ぐような対策を考えていくことが必要ではないか。

【高森 奥州商工会議所事務局長】

- ・地域の活性化のためには若者に地元に残ってもらう必要がある。そのためには、地域の産業界と専門高校がますます連携していくことが重要になってくる。

【石川 金ヶ崎町商工会事務局長】

- ・少子化に伴い高校再編はやむを得ないことであり、その基本的な考え方を示す「今後の高等学校教育の基本的方向」については理解できる。ただ、具体的な再編案が示されたときにどうなるかが、気になるところである。

【佐藤 奥州市PTA連合会会長】

- ・地域の小中学校も少子化の影響を受けている。その様子を見ると高校再編もやむを得ないと感じるが、具体的な統合を進める際は、地域に十分に説明しながら進めてもらいたい。

【菊池 奥州市PTA連合会副会長】

- ・旧江刺市には岩谷堂高校と岩谷堂農林高校の2つがあった。農業関係の学習内容は岩谷堂高校に引き継がれていると思うが、総合学科になったことにより地元に残る生徒が少なくなったのではないかと感じている。
- ・胆江ブロックは他地区への流出が多いということであったが、やりたい部活動ができる高校や学びたい学科がある専門高校に進学することが原因の一つであると思う。逆に、この地区に魅力ある高校を整備すれば流出が抑えられるのではないか。

（次頁に続く）

【齋藤 奥州市PTA連合会理事】

- ・胆江地区には学びたい専門学科がないと子ども達から聞かされることがある。学科の見直しをする必要があるのではないか。

【菅原 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校PTA副会長】

- ・地元の高校に進学させ、地元に残ってほしいのであれば地域に若者を受け入れる体制（受け皿）が整っている必要がある。
- ・子どもも保護者も高校進学を考えると、地元の高校かどうかということではなく、自分の力を生かせる学校を選択するのではないか。魅力ある高校にしていくことが必要と考える。
- ・高校はある程度の規模があり、多くの生徒の中で様々な経験を積ませることが大切である。高校再編を進める際は、その点についても考慮していただきたい。

【田面木 奥州市教育委員会教育長】

- ・胆江ブロックの流出超過について分析が必要と考える。流出を防ぐためには、胆江ブロックのそれぞれの学校が特色を出していくことが重要になってくるのではないか。
- ・通学に対する支援、少子化に伴う学級定員の見直しも必要ではないか。

【長野 金ヶ崎町教育委員会教育次長】

- ・「今後の高等学校教育の基本的方向」については、丁寧に書かれてあり理解できる。しかし、高校は地域の歴史でありシンボルである。町教育委員会としては、高校の存続という地域の声を聴きながら対応していかなければならない立場でもある。
- ・当町は交通網が整備され恵まれた環境にあるため、広範囲にわたり通学できる現状にある。金ヶ崎高校の魅力を高めるため、町として力を入れている英語教育を生かした連携を図っていきたい。

【佐々木 胆江地区中学校長会会長】

- ・胆江ブロック内で、中学生が校種の異なる高校を選択できるよう整備してほしい。
- ・胆江ブロックは農・工・商の専門高校がバランスよく設置されている。今後は6次産業化を見据え、専門高校での学び方を工夫していく必要があるのではないか。専門高校を統合することも一つの方法であると思う。

【 県教委 】

- ・高校の存続についての意見があったが、そのために地域との連携がどのようにあればよいか等について、御意見を伺いたい。
- ・PTAの方々からは学科の見直し、中学生が入学したい学科がない等の御意見をいただいたが、どのような学科のことを想定しているのか伺いたい。

【佐々木 胆江地区中学校長会会長】

- ・当地区には芸術、スポーツ、語学系の学科がない。金ヶ崎町の英語教育の取り組みを生かすとなると語学系の学科については設置が可能かどうか、検討に値するのではないか。

【菅原 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校PTA副会長】

- ・普通高校はどの高校も同じような内容を学んでおり特色が少ない。各高校の特色をもっとアピールしてほしい。

【菊池 奥州市PTA連合会副会長】

- ・専門高校からでも大学進学を視野に入れた教育活動ができれば、専門高校の魅力をより高めることができ、入学した生徒のためにもよいのではないか。

(次頁に続く)

【 県教委 】

- ・ 専門高校は専門科目を中心とした教育課程になっているため、専門の学びを生かし大学には推薦で進学する生徒がほとんどである。
- ・ 学科に関して、産業関係の方々から御意見を伺いたい。

【石川 金ヶ崎町商工会事務局長】

- ・ 北上市、金ヶ崎町は工業・ものづくり産業の振興を目指しているため工業高校は必要と考える。

【高森 奥州商工会議所事務局長】

- ・ I L C の誘致が実現すれば、物理や国際化に対応した語学系の学科の設置が必要になるのではないかと。

【青沼 奥州市認定農業者協議会長】

- ・ 学科の在り方も大切であるが、魅力ある高校にしていくためには、教員の資質向上は欠かせない。

【千葉 金ヶ崎農林水産関係者代表】

- ・ 普通高校、専門高校と必ずしも分ける必要はないのではないかと。生徒に社会性を身に付けさせるためにも一定の学校規模は必要であり、普通高校と専門高校の併置校はあってもよい。

【 県教委 】

- ・ 県内では、総合的な専門高校として釜石商工高校や大船渡東高校、花北青雲高校がある。当地区ではこのような高校はないが、岩谷堂高校は総合学科として様々な系列を選択でき自分の進路目標に合わせ学習できる学校である。
- ・ 通学面について、現在の実態等も含め御意見をいただきたい。

【斎藤 奥州市PTA連合会理事】

- ・ 最寄り駅から遠い高校が多く、親の送り迎えが大変である。交通の便を良くしてもらえればありがたい。

【長野 金ヶ崎町教育委員会教育次長】

- ・ 金ヶ崎高校は、六原駅と金ヶ崎駅の間であり交通の便は良くない。住民からは2つの駅を結ぶバス運行ができないかとの声があがっており検討中である。

【小野寺 金ヶ崎町副町長】

- ・ 望ましい学校規模を4～6学級としているが、根拠を伺いたい。

【 県教委 】

- ・ 弾力的な教育課程を編成することや一定程度の学校規模の中で切磋琢磨し、生徒に社会性を身に付けさせていく必要があることから設定しているものである。ただ、この考え方は、どの学校にも一律に当てはめるものではなく、地域の実態を十分考慮したうえで検討していくものである。

【 県教委 】

- ・ 高校は選択履修が基本であり、理科・社会は科目が分かれている。大学入試には受験科目が決められているため、生徒の要望に対応するためには教育課程を幅広く設定する必要があり、それぞれの専門の教員を配置するには一定程度の学校規模は必要となっている。生徒数が少なくなると部活動の数も限定される。

【 県教委 】

- ・ 大学受験にかかわらず各教科の専門的な内容を教えていくことは大切である。生徒に十分な学習内容を提供できる一つの目安としてお示ししているものである。

(次頁に続く)

【小野寺 金ヶ崎町副町長】

- ・地域による人材育成と言うが、県教委で考える地域とはどのレベルを指すのか。

【 県教委 】

- ・学校の所在する地域だけでなく、県内も含めて考えているところ。一方、日本や世界を相手に活躍する人材育成も必要である。

【千葉 金ヶ崎農林水産関係者代表】

- ・今までの説明の中で、法律の関係で対応できないことがあれば教えてほしい。

【 県教委 】

- ・法律で対応できないということではないが、学級定員は高校標準法で40人と規定され、これに基づき国から予算措置（財政支援）を受けている。学級定員を少なくすれば、国からの予算措置（財政支援）が減るという課題はあるため、県全体で学級定員を少なくすることは多大な予算が必要となるため難しいと考えている。そのため、一部地域において少人数学級の導入ができないかも含め、検討していきたい。